

広報

# もり 中部の森林

★ ★ ★ ★ ★  
デイスカバー  
農山漁村の宝  
AWARD  
～第10回選定～

募集中!



写真:「付知峡 鳩ノ巣滝」(東濃署管内)

私の森語り「滝めぐりのシーズンがやってきました」  
NPO法人飛騨小坂200滝 理事長 皆越真佐代

## 特集

・ JICAによるパプアニューギニア森林公社職員の現地研修  
各地からの便り

- ・ 管内各地で森林祭などが開催されました
- ・ 「ハヶ岳開山祭」4年ぶりの開催 ほか

## シリーズ

- ・ 森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、  
秘蔵写真・今は昔の林業



林野庁中部森林管理局



2023/No.232



旧帝室林野局木曾支局庁舎である木曾町の「御料館」<sup>ごりょうかん</sup> 前での記念撮影

JICA  
 (独立行政法人 国際協力機構)  
 による現地研修を実施

【企画調整課・木曾<sup>きそ</sup>森林管理署】

五月三十一日から六月一日の二日間、木曾森林管理署管内において、パプアニューギニア(以下「PNG」)森林公社(日本の林野庁に相当)の職員五名が参加するJICAの現地研修が実施され、国有林における林地保全への配慮、持続可能な森林経営等について学んでいただきました。

研修生の母国PNGは、美しい海や原生的な森林など、豊かな自然が残り、人と自然が共生する「最後の楽園」と呼ばれています。一方、近年では経済発展とともに、森林の伐採や木材の輸出が行われ、地域の雇用や収入が増えましたが、森林を保全するための伐採等のルールが十分に守られていないため、土壌の流出や水質の悪化など、森林の公益的な機能が失われていることから、森林資源の利用と持続的な管理等が重要な課題とされています。

多様な種が生育する天然林を伐採しているPNGと、スギやヒノキ、カラマツ等の人工林を中心に伐採している日本とは、森林の状態も木材の生産方法も異なりますが、研修生は国内各地での講義や現地研修等により、日本の森林や林業に関する理解を深め、PNGにおける森林保全プロジェクト活動に活用することを目的に来日されており、現地研修の場として、木曾ヒノキ等の美林を維持しながら高品質な木材を生産している木曾地域が選ばれました。

木曾署での研修一日目は講義を中心とし、署長から管内の概要を説明し、次長による研修中の安全指導を行い、各事業担当者から請負事業の発注から完了までの流れ、監督業務、動画によるヘリコプター集材、木曾ヒノキ伐採後の天然更新について説明しました。説明は、すべて日本語で行いましたが、随時、通訳をとおして英語に翻訳されるとともに、事前にJICAで翻訳・配布された資料を使用することで、言葉が違う中

でも説明内容が研修生に伝わり、「事業の契約書の構成について知りたい」「天然更新の障害となる要因を教えてください」との質問が出されました。

木曾署での講義後は、林業遺産として認定された木曾町の「御料館」に移動し、木曾町教育委員会の学芸員から木曾谷の林業の歴史などについて説明を受けました。御料館での研修中、報道機関三社からの取材を受けた研修生のジョン・オラビさんが「この地域の林業の歴史を知ることが自分たちを導いてくれる」と話していたことが印象的でした。

二日目は、管内の国有林内で実施している各事業地を案内しました。

製品生産事業地では、高性能林業機械を使用した架線集材を見学し、研修生は自分のスマートフォン等で集材の様子を撮影するとともに事業者が集材や間伐の方法等について積極的に質問していました。その後、天然更新を進めている現場では伐採後の林地に生育す

る樹木の種類や大きさにより更新状況を確認する調査、造林事業地では植付の検査、林道事業地では事業体との協議を行う監督業務や完成検査をそれぞれ体験してもらいました。

研修生は、どの現場でも熱心に耳を傾け、多くの質問や会話が飛び交い、現場を案内する職員や研修スタッフが一つひとつ丁寧に確認した上で説明し、予定時間を超過する場面もありましたが、研修生がここで得た知識や経験は、PNGの今後の森林保全や管理に必ず寄与し、貢献していくものだと感じました。

中世、近世、現代における木曾谷の林業を二日間で辿る研修を終え、最後に研修生から署へのお礼として現地の木彫り人形が贈られますが、木曾署長からは「働く国は違いますが、私たちは同じ仕事をしています。研修の成果を皆さんの国で活かしていただければ、とてもうれしいです。お互いがんばりましょう」との言葉を贈り、研修を終えました。



高性能林業機械を使用した架線集材を見学



木曾署で講義を受ける様子



林道工事の検査業務について質問する研修生



天然更新の状況確認調査を体験



上小地区森林祭 (UE森2023)  
協定企業と一般参加者が協力してカラマツを植樹



佐久地域森林祭・長野県植樹祭 (佐久会場)  
カラマツを植樹するみどりの少年団



川上村植樹祭  
カラマツコンテナ苗を植樹



南牧村植樹祭  
オオヤマザクラなどの広葉樹を植樹

**管内各地で森林祭などが  
開催されました**



【東信森林管理署】

五月二十三日、第三十二回佐久地域森林祭並びに第七十三回長野県植樹祭 (佐久会場) が南相木村立原高原で開催されました。

式典では、主催者を代表して南相木村長から歓迎の挨拶、地元小学生のみどりの少年団による「みどりのふれあい宣言」がありました。

あいにくの雨の中での開催となりましたが、来賓によるオオヤマザクラの記念植樹を行ったあと、参加者約百七十名でカラマツのコンテナ苗を二千四百本植樹し、苗木にとっては恵みの雨となりました。

植樹に際し、当署からはコンテナ苗の植栽用パワーアシストドリル「植穴名人」を三台持ち込み、参加者の皆さんに実践を交えて使い方を伝授しました。このような道具が普及し、効率的かつ低コストで再造林が行えることに期待して

います。

五月二十七日には上小地区森林祭が長和町長久保財産区有林で開催されました。今回から名称がUE森に変更され、上田地域振興局長より主催者の挨拶、長和町長からは歓迎の挨拶があり、「上田地域にぎやかな森プロジェクト」の協定企業である九社と一般参加者の約百五十名でカラマツコンテナ苗を約二千二百本植樹しました。

こちらにも「植穴名人」を持参し、参加者の方々に使ってもらいながら楽しく作業を行ってもらうことができ、汗ばむほどの陽気の中「植えるのがとても楽です」などの感想をいただきました。

これらに先立ち、五月十二日に南牧村の旧野辺山スキー場跡地でオオヤマザクラ等の広葉樹の植樹、五月十八日には川上村の高登谷湖畔でカラマツコンテナ苗の植樹が行われました。

当署職員も各所での植樹に汗を流し、地域緑化活動の一翼を担うことができました。

長野地域森林祭及び戸隠ふれあいの森植樹祭

【北信森林管理署】

五月二十七日、上水内郡小川村

の「星と緑のロマン館」及び周辺エリアにおいて、長野地域森林祭実行委員会主催による令和五年度長野地域森林祭が行われました。

森林・林業・木材業への理解を深め、地域緑化と森林資源の整備の推進を図ることを目的に、関係団体や地元の子の緑の少年団など、約百三十名が額に汗を流しながら、シャクナゲ百二十本、イロハモミジ五十本の苗木を植樹しました。



シャクナゲを植樹する緑の少年団



今年で22回目となる戸隠ふれあいの森植樹祭

また、六月四日には、黒姫山国有林内の「戸隠ふれあいの森」において、戸隠森林植物園ボランティアの会とやまぼうし自然学校主催の植樹祭が行われ、ボーイスカウト長野第一団の団員と保護者など約四十名が参加しました。ササの根が張った固い地面に唐鋤やスコップで穴をあけ、ブナやトチノキ、キハダなど、六種類の広葉樹、合わせて二百六十本を植樹しました。植樹した木々が美しい風景や豊かな森林になってくれることを願っています。

「御柱の森木の文化を支える森」記念植樹を実施

【南信森林管理署】

六月四日、下諏訪町住民等によ

る御柱の森づくり協議会主催の「御柱の森づくり、樫の木街道記念植樹」が東俣国有林において開催され、来賓、協議会員等約八十名で十四本のモミの苗木を植樹しました。

開会式では、主催者を代表して奥村協議会長が「伝統ある諏訪地方の御柱を子や孫に繋げるため百年、二百年先を見据え、御柱の森として守り育てていくことが大切」と挨拶され、当署の次長からは「今後とも森林の多面的な機能を高度に発揮するための森林整備に努めていくとともに、木材供給を通じて伝統文化の継承に寄与することも国有林の重要な役割」と挨拶しました。

その後、下諏訪町の木遣り保存会による木遣りが披露され、甲高い「曳行の木遣り唄」等が響き渡ると参加者から「これはさんのうえー！よいさー！よいさー！よいさー！」と



木遣り唄を声援に植樹する参加者

合の手が入り、植樹への気分が高揚した参加者たちは「立派な御柱になるように」との願いを込め、各地区に分かれて一本一本丁寧に植樹し、ニホンジカの食害を防ぐためのネットで囲み、作業は一時間ほどで無事終了しました。御柱の森づくり協議会と当署は、地域伝統文化の森づくりとして、平成十四年に「御柱の森」の協定を締結し、諏訪地方の伝統的な行事である諏訪大社の御柱祭で利用できるモミ大径材の育成を図るための森林整備を進めています。今回、植樹した木が御柱となるには長い年月が必要ですが、きっと将来、伝統ある大祭を大いに盛り上げてくれることでしょう。

とやま森の祭典「二〇二二」

【富山森林管理署】

五月二十八日、富山県砺波市の県民公園「頼成の森」において「SDGs 未来のみにちに緑をうえよう」をテーマに「とやま森の祭典二〇二二」が開催され、約二千人が来場しました。



今泉局長による記念植樹

式典では富山県知事の挨拶をはじめ、緑化活動の功績に対する表彰等が行われ、その後、参加者による森づくり活動として記念植樹が行われ、今泉局長と当署の署長が富山県産の無花粉スギ「立山森の輝き」を植樹しました。



「風とせせらぎの森林」で

森林整備

【富山森林管理署】

五月二十日、大沢野国有林において「社会貢献の森」の協定を締結しているNPO法人きんたろう倶楽部（以下、「倶楽部」と混入している竹の除去作業を行いました。

同国有林は、風害を防止する防風保安林に指定されており、防風機能の維持を目的に、森林整備の活動が行われています。

当日は、倶楽部の会員七名と当署の五名が参加し、安全第一で竹をノコギリで切り倒し、チップで細かく粉砕し、林内へ戻しました。



作業に参加した倶楽部の会員と当署職員



水無国有林で

自然観察会を開催

【富山森林管理署】

六月四日、富山県南砺市利賀村の水無湿原において、「第三十回富山県ナチュラリスト利賀大会」が開催され、県内のナチュラリスト会員約六十名が参加し、当署からは署長をはじめ四名が参加しました。

水無湿原は、希少個体群保護林に設定されていますが、近年は、湿原の乾燥化が進むことによる湿性植物の減少や、イノシシによるミズバショウの被害が発生しています。このため、地元NPO法人利賀飛翔の会等と連携し、湿原の保全活動に取り組んでおり、当日もイノシシの被害対策として、ワイヤーメッシュの敷設作業を行いました。

自然観察会では、湿性植物のほか、ギフチョウやモリアオガエル、サンショウウオの卵塊も観察できました。天候にも恵まれ、参加された方々は、湿原でのひとときを満喫されていました。



自然観察会の様子



ミズバショウ

イノシシ被害対策によるワイヤーメッシュ敷設作業

**湿原の植生を守れ！  
二つの湿原に電気柵を設置**

【飛騨森林管理署】

五月二十三日、飛騨市河合町の天生国有林内に所在する天生湿原において、獣害対策用の電気柵の設置作業を飛騨市役所及び天生県立自然公園協議会のメンバー等とともに実施しました。

天生湿原は、世界遺産白川郷に接し、標高約一、四〇〇メートルに広がる約三分の二の高層湿原で、ミズバショウやニッコウキスゲなど、湿原を代表する植物が春から初秋にかけて見られ、北アルプスの山並みなど、眺望が素晴らしい標高一、七四四メートルの糶糠山への登山道や湿原の探勝路も整備されています。

そのため、多くの観光客等が訪れる場所となっていますが、近年はイノシシなどによる獣害が多く発生しており、その対策として、毎年この時期に電気柵を設置し、被害の軽減を図っています。

この日は、時折小雨が降る天気でしたが、当署からはグリーンサポートスタッフを含む九名が参加



ミズバショウが咲く天生湿原と作業風景

し、協議会メンバーと協力しながら湿原を包囲する電気柵の設置作業を行いました。

初めて設置作業を行う職員もいましたが、徐々に設置の手際やチームワークが良くなり、当初の予定時間よりも早く作業を終えることができました。

ミズバショウの時期は過ぎつつありますが、湿原に隣接するブナやカツラの木が広がる森林も含め、見所がいっぱいの天生湿原に是非お越しいただければと思います。

また、六月四日には高山市荘川町の山中山国有林の山中峠（標高一、二七五メートル）付近に広がる約二ヘクタールの湿原において、高山市役所及び地域の有志、岐阜大学の学生等と電気柵の設置作業を行いました。

この湿原に群生するミズバショウは、日本における分布の南限にあたり、希少個体群保護林に設定するとともに岐阜県の天然記念物にも指定されており、こちらもイノシシやニホンジカによる湿地の攪乱や採食の被害が拡大したため、十年ほど前より毎年協力して設置しています。

また、この湿原をフィールドにして、岐阜大学応用生物科学部の安藤先生を中心に被害を受けたミズバショウ群生地への回復に向けた調査と人工移植などの研究が続けられています。

作業当日は、心配された台風の影響も無く、爽やかな陽気のなか、予定どおり午前中で作業を終えることができました。これまでに実施してきた本活動の成果として、ミズバショウも徐々に増加傾向にあるとの報告が大学関係者よりあ



山中峠付近の湿原における電気柵設置作業

りましたが、今後もこのような地道な調査や研究により、湿原の植生復元につながることを期待したいと思います。

当署では両湿原をはじめとして、今後も希少な植生などの保護に向けて、関係団体と連携しながら取組を行っていきたくと考えています。

【北信森林管理署】  
五月三十日、「ゴミゼロの日」に  
合わせ、戸隠山国有林内の戸隠森  
林植物園とその周辺において、関  
係機関や団体の協力を得て、総勢  
約五十名による清掃美化活動と外  
来植物の除去を実施しました。

当日は、夏のような日差しの中、  
参加者の皆さんは林野庁のロゴ入  
りベストを着用し、植物園内や戸  
隠神社奥社参道、戸隠キャンプ場  
や周辺道路沿いのゴミを拾い、ハ  
ルザキヤマガラシ、ヒメシヨオン、  
セイヨウタンポポ等の外来植物の  
除去作業を行いました。

今回拾ったゴミの量は、ごくわ  
ずかでしたが、感染予防用と思わ  
れるマスクが落ちているケースが  
多く見受けられました。

これからも管内の一大観光地で  
ある戸隠山麓の清掃美化の大切さ  
を広くPRしながら、ゴミゼロ運  
動を継続してまいります。

ゴミゼロ運動 戸隠森林植物園  
周辺で清掃活動を実施



外来植物で一杯になった軽トラック



駐車場脇での外来植物の除去作業

【飛騨森林管理署】  
五月三十日、高山市清見町に所  
在する彦谷国有林と隣接する県道  
九〇号線(別名・飛騨卯の花街道)  
と上小鳥国有林及び隣接する国道  
一五八号線の二箇所においてク  
リーン活動(ゴミ拾い)を実施しま  
した。

東海地区の梅雨入りが発表され  
た翌日であり、天候が心配されま  
したが、青空に恵まれ、爽やかな  
陽気のなか、当署の職員に加え、  
名古屋林業土木協会及び名古屋造  
林素材生産事業協会の会員など総  
勢四十八名が参加し、一時間半ほ  
どの作業に汗を流しました。

彦谷国有林は、北アルプスや白  
山が一望できることで有名な  
猪臥山へつながる登山ルートと  
なっており、東海北陸道から飛騨  
市街地へ抜ける県道九〇号線の待  
避所付近を中心に多くのゴミが目  
立ち、回収袋がすぐに一杯になっ  
てしまう参加者もいました。

今回初めて活動を行った上小鳥

梅雨の晴れ間にゴミ拾い  
国有林クリーン活動実施



車の接近に気をつけながらのクリーン活動

国有林に接する国道一五八号線  
は、高山市街地から白川郷や郡上  
市へ至る主要道で交通量も多いこ  
とからポイ捨てなどによるものと  
思われるゴミが目立ちました。

回収されたゴミは軽トラック一  
台分ぐらいあり、活動終了後に職  
員が分別し、リサイクルセンター  
に搬入したところ、計測結果は  
六十詰で、昨年度の二倍の回収量  
でした。

山へ入る方だけでなく、道路脇  
で休憩する方が多い中、ゴミは捨  
てない、持ち帰るという意識を  
持っていただけるよう、今後もク  
リーン活動を継続して行ってまい  
ります。



地域関係者と協力し

「国有林ゴミゼロ運動」を実施

【東濃森林管理署】

六月十四日、白川付知林道（市道五〇号線）沿線において、「国有林ゴミゼロ運動」を行いました。

同林道は、付知峡自然休養林のアクセス路として、高檜の滝をはじめとする滝や溪谷の散策、ランプの宿として知られている渡合温泉の利用等、名古屋市などの中京圏から多くの方が訪れます。

付知峡の自然美を求めて訪れる方々を気持ちよく迎えるため、中津川市をはじめ、付知町観光協会や関係団体など、総勢四十五名に参加していただき、小雨降る蒸し暑い中、林道周辺のゴミ拾いや草刈り等の作業に汗を流しました。

また、作業終了後には、昨年度、当局にて開催した「中部の森林林業従事者写真コンテスト」において入選された当署管内の作品を紹介し、賞状の授与をさせていただきました。

この「国有林ゴミゼロ運動」は、



ゴミゼロ運動後の記念撮影

森林にふれあう場の環境を整えるとともに、不法投棄防止等の啓発活動として毎年実施しています。が、ゴミの量は年々減少しており、運動の成果を感じています。今後、「ゴミゼロ」を目指して、引き続き、地域関係者と連携し、より多くの方がこの地を訪れ、楽しんでいただけるよう取り組んでまいります。

名古屋市高年大学の

「熱田白鳥の歴史館」講座

【名古屋事務所】

六月七日と九日、名古屋市高年大学鯨城学園で専門講座として「地域」を専攻されているニクラスの学生、各四十名近くの方々が授業の一環として「熱田白鳥の歴史館」を訪問されました。

鯨城学園は、高齢者の生きがいづくりと、地域活動の核となる人材の養成を目的として設立されたシニア大学で、こちらのニクラスでは名古屋の歴史や文化、産業など広く学んでおられます。

当所の職員より、中部森林管理局の業務内容、白鳥貯木場の四百年にわたる歴史、木曾山の森林・林業の歴史、伐木運材図絵に見る江戸時代の伐採・搬出から現代の林業までの変遷などを説明しました。日頃、あまり馴染みのない奥山での林業について、昔の迫力ある運材の動画などから興味を持っていただけたようでした。

また、参加者の中には、地元の名古屋市熱田区で育ち、熱田営林



国有林野事業や白鳥貯木場の歴史を紹介

署や白鳥貯木場は子どもの頃の遊び場だったと、当時を懐かしむ姿も見られ、白鳥貯木場で見たことや体験したことなどを教えていただきました。名古屋市では、地域への理解を深める様々な取組をされていますので、これからもこのような機会を得て、都市住民の方々に川上の森林・林業を紹介していきたいと思えます。



赤岳山頂における開山祭の様子

## 「八ヶ岳開山祭」

四年ぶりの開催

【南信森林管理署・東信森林管理署】

六月四日、八ヶ岳連峰の夏山シーズン到来に合わせて開山祭が行われました。

コロナ禍の影響もあり、四年ぶりの山頂での開催となり、開山祭を待ちわびた多くの登山者や山小屋関係者等が、南八ヶ岳会場（赤岳山頂）に約三百人、北八ヶ岳会場（北横岳山頂）に約三百人集まり、今年の登山の安全を祈願しました。

北八ヶ岳会場では、南信署の署長より、「八ヶ岳は毎年多くの登山者で賑わう分、山岳遭難も多発しており、昨年は五十二件の遭難が発生し、四人の命が失われました。登山者の方々には適切な装備と自身の体力、実力に合った登山ルートを設定し、安全にしっかりと留意していただくとともに、貴重な高山生態系の保護活動にもご理解、ご協力をお願いし、山での充実した時間を過ごしていただきたい」との祝辞を述べました。

続いて、遭難事故者を追悼する献花と黙祷が捧げられ、雪山讃歌の合唱が行われました。その後は参加者に御神酒が振る舞われ、集まった人々は、御神酒が入った紙コップを片手に他の登山者と談笑し、記念撮影を行うなど、楽しいひと時を過ごしていました。また、参加者に限定の記念ピンバッジが配られ、開山祭は無事に終了しました。

八ヶ岳一帯は、国定公園に指定されており、首都圏からのアクセスも良好で、老若男女を問わず楽しめる多様な登山ルートがあることから、例年多くの登山者が訪れます。

新型コロナウイルス感染症の分類が見直され、今後、より多くの登山者が見込まれる一方で遭難事故の増加も懸念されています。

当署としては、山小屋関係者や地域の観光関係者の方々と連携し、山岳遭難のリスクを低減させる取組を推進していくとともに、八ヶ岳の豊かな自然環境の保全にも取り組んでまいります。

シリーズ

# 森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【東信森林管理署佐久森林事務所】

森林官 田中良太

佐久森林事務所は長野県東部の佐久市に所在し、日本一美しいとされている白樺群生地である佐久穂町の国有林、約四、〇〇〇ヘクタを管理しています。

管内東側には信州百名山の一つである茂来山があります。標高一、七二八メートルの茂来山は、手軽な登山が楽しめる場としても人気で、山頂へ向かう途中には「森の巨人たち百選」に選ばれた「こぶ太郎（トチノキ・推定樹齢二五〇年超・胸高直径一七〇センチ）」にも出会うことができます。また、山頂部は眺望



こぶ太郎

が開けていることから、八ヶ岳連峰や佐久平を一望できる景色も楽しめます。

管内の西側は、八ヶ岳中信高原国定公園に指定されている北八ヶ岳エリアがあり、白駒の池や双子池などがあります。特に白駒の池は、標高二、一〇〇メートル以上の湖としては日本一広い湖です。国道二九九号線沿いにある駐車場から



白駒の池（高見石より望む）

も近く、夏の新緑や秋の紅葉を楽しむ多くの観光客が訪れる名所となっています。

さらに、池の周辺は苔の森としても知られており、四八五種類の苔が生息している神秘的な原生林が特徴で、苔と原生林がマッチした神秘的な場所となっています。



神秘的な原生林の様子

このように身近な国有林として親しまれている当事務所の森林官として、日頃の林野巡視から造林事業の監督など、多様な業務を実施しています。森林の外でも地元

消防団等と協力しての山火事予防パレードや様々な会議への出席等もあり、外部の方々との連携も重要な要素です。

私は今年度より森林官となりましたが、分らない事も多くあり、署の担当者や他の森林事務所の森林官からもアドバイスをいただきながら、日々業務に努めています。



筆者

■未来の担い手へのメッセージ  
国有林をフィールドに、育林から木材としての活用まで、時間をかけて森林を育てることがメインとなりますが、それ以外にも貴重な自然環境の維持管理、土地の活用など、多種多様な業務を行っており、様々な立場から森林に関わることができる職場です。興味がある方は、是非この職場で共に働きましょう。

### 〈シリーズ「私の森語り」〉

# シリーズ 「私の森語り」 もりかた

「滝めぐりのシーズンが  
やってきました」



NPO法人飛騨小坂200滝  
理事長  
皆越 真佐代

#### ■自己紹介

主人の転勤で小坂町に引越したのは二十年前の事です。子育てやボランティアで地域の方々との繋がりが増え、子育ての終盤頃には小坂の観光に携わる事に就きました。それが「岐阜の宝もの」に関わる仕事で、小坂の宝ものを最終目的とし、小坂の宝ものを掘り起こし、体験プログラムを開催し、小坂の滝めぐりと共に紹介する内容でした。その経験が小坂の自然、暮らし、歴史、文化を知り、滝めぐりでの

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



#### ■活動内容

小坂の滝めぐり写真集、これは滝調査委員会の方々が一つひとつの滝を手弁当で調査し、地図に落とし込み、大きさを測定するという努力が結集された写真集です。



蒼く美しい水瀑に出会う冬の滝めぐり

これがきっかけとなり、初代理事長がNPO法人飛騨小坂200滝を立ち上げました。

写真で残すだけでなく、行ける

滝めぐり、会える滝めぐりとして多くの方を案内し、この自然をいつまでも大切にしていける目的で同志を募りました。現在は、その思いに共感した若者たちがアクティビティとして夏の沢登り、冬の氷瀑ツアーを開催しています。

夏の沢登り「小坂なシャワークライミング」では、ウエットスーツを着用し、ライフジャケット、ヘルメット、沢たびで装備を整え、谷にくりだします。

谷歩きから始まるこのツアー、少し行くと深みに入り、泳いだり、岩に登りジャブーンと飛び込んだり、そして、ザイルで滝を登り、上を目指す、まさに体全体を駆使しながら沢を攻略していく、そんな体験ができます。

そのツアーをサポートする若手ガイド、スキルも高く、参加者を楽しませること間違いなしです。皆様のお越しをお待ちしています。



清流アドベンチャー！夏の滝めぐり

#### ■メッセージ

先日、岐阜県より岐阜未来遺産に認定されました。持続可能な観光の先進的取組として世界から選ばれる旅先となる、期待できる地域・観光プログラムとして選ばれました。

今後、受け入れ環境の整備や魅力向上の取組を行い、多くの方に小坂の滝めぐりを楽しんでいただけるよう努めてまいります。

#### ○連絡先

〒509-1311  
岐阜県下呂市小坂町落合38-8  
電話：0576-6212215  
<https://www.osaka-taki.com/>



# 暖帯から温帯へと移り変わる森

賤母 生物群集保護林

## 設定目的

木曾谷南部（賤母<sup>しずも</sup>）周辺の標高三〇〇〜五〇〇<sup>メートル</sup>の範囲には、温帯性針葉樹を主体としつつも常緑広葉樹が混在しており、太平洋側の温帯林から暖帯林への移行帯を形成しています。

これらは木曾谷の森林の中でも特異であり、地域固有の植生分布を含む森林生態系を一体的に保護しています。

## 地況・林況

当保護林は、長野・岐阜県境周辺の木曾川左岸に位置しています。

高木層は木曾ヒノキ、サワラ、モミ、ツガ等で、低木層はヒサカキ、ウラジロガシ、ヤブツバキ等の暖帯系の常緑広葉樹を多く含む森林となっており、その構成種は五〇〇種に及ぶとされています。

## 所在地

長野県 木曾郡 南木曾町  
岐阜県 中津川市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。



シリーズ

中部の保護林(第27回)

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第27回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「安全懇談会」

林業の作業中に発生する労働災害は残念ながら昔も今も決して少なくありません。重量のある木材を扱うこと、作業が行われる場所が傾斜地や滑りやすい場所もある山林であること、刃を持った道具を扱うことなど、様々な要因が背景にはあります。



安全懇談会での実演  
(昭和33年頃・旧長野営林局管内)



安全懇談会での実演  
(昭和31年・現在の木曾森林管理署)

古くは現場仕事の世界では「ケガと弁当は自分持ち」などと言われ、労働災害への安全対策は働く人自身に任せられがちでしたが、時代が経つにつれて社会や職場組織でも対策が考えられるようになっていきました。



昭和36年・長野営林局安全会議の様子

国有林でも安全懇談会、安全会議、安全大会などの名称で集会・会議が開催され、労働

災害の縮減に向けた分析、対策、注意喚起などが取り組まれてきました。特に七月一日から七日までの「全国安全週間」には昭和初期から安全に関する大きな行事が行われてきています。

また、実際に作業が行われる現場の近くを目につく場所に安全標語が掲げられたり、作業小屋に安全掲示板が設置されるなど、様々な場面で注意喚起がはかられたりもしています。



森林鉄道沿いに掲示された安全標語  
(昭和30年頃・現在の木曾森林管理署管内)



貯木場の安全掲示板  
(現在の岐阜森林管理署管内)

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。  
当サイトへは、コードを読み込んでください。



# 地元が誇る 林業の魅力を発信

岐阜市にある「ぎふ木遊館(岐阜県の施設)は、岐阜県の豊かな森林の恵みを体感し、森林に誇りと愛着を持ち、守り育てる人材を育む「ぎふ木育」を推進するため、「だれでも」「いつでも」「ぎふの木を核とした」「遊び」「学び」「交流・連携」「創造」「発信」のサービスを受受できる総合的な拠点として整備されており、岐阜県内の市町村における森林の魅力、木育の取組やおもちゃ作家の方々を紹介するなどの様々な企画展が行われています。

今年の六月十七日から七月十四日までの間は、中津川市の企画展が開催されており、同市からの協力依頼を受けた東濃森林管理署では、所蔵している「付知川における材木搬出の沿革と繪解」「初代大ヒノキの写真」「平成九年度 伊勢神宮御神木斧入式の切り株」などの貸し出しを行い、地域の森林や林業の歴史などを紹介しました。

ぎふ木遊館には、県内外から多くの利用者が訪れ、県内各市町村

の魅力が再発見できる企画展は、とても好評のようです。

中部森林管理局では、これからも森林、林業、木材産業の魅力発信に向けて、地元市町村や関係団体等とともに取り組んでまいります。



岐阜県内でも意外と知られていない林業などの魅力を発信

**調達情報**  
**メールマガジン**  
**はじめました!**

中部森林管理局経理課では、より多くの事業者の皆さまに入札情報をお届けするため、中部森林管理局及び森林管理署等が発注する各種工事や、造林事業、素材生産事業、物品等の調達情報について、今年の六月から登録者へのメール配信をはじめました!

- 配信日/毎週水曜日
- 登録及び購読料/無料

メールマガジン登録の申し込みは、コードを読み込んでいただき、リンク先のページでお願いいたします。

配信変更(配信先メールアドレス変更、広報誌「中部の森林」メールマガジン追加等)や、配信解除を行うこともできます。

ぜひ、ご登録ください!



## 編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、[migoro@maff.go.jp](mailto:migoro@maff.go.jp)まで電子メールでお送りください。)

パプアニューギニア森林公社職員が研修に来られるということで、取材に行っていました。

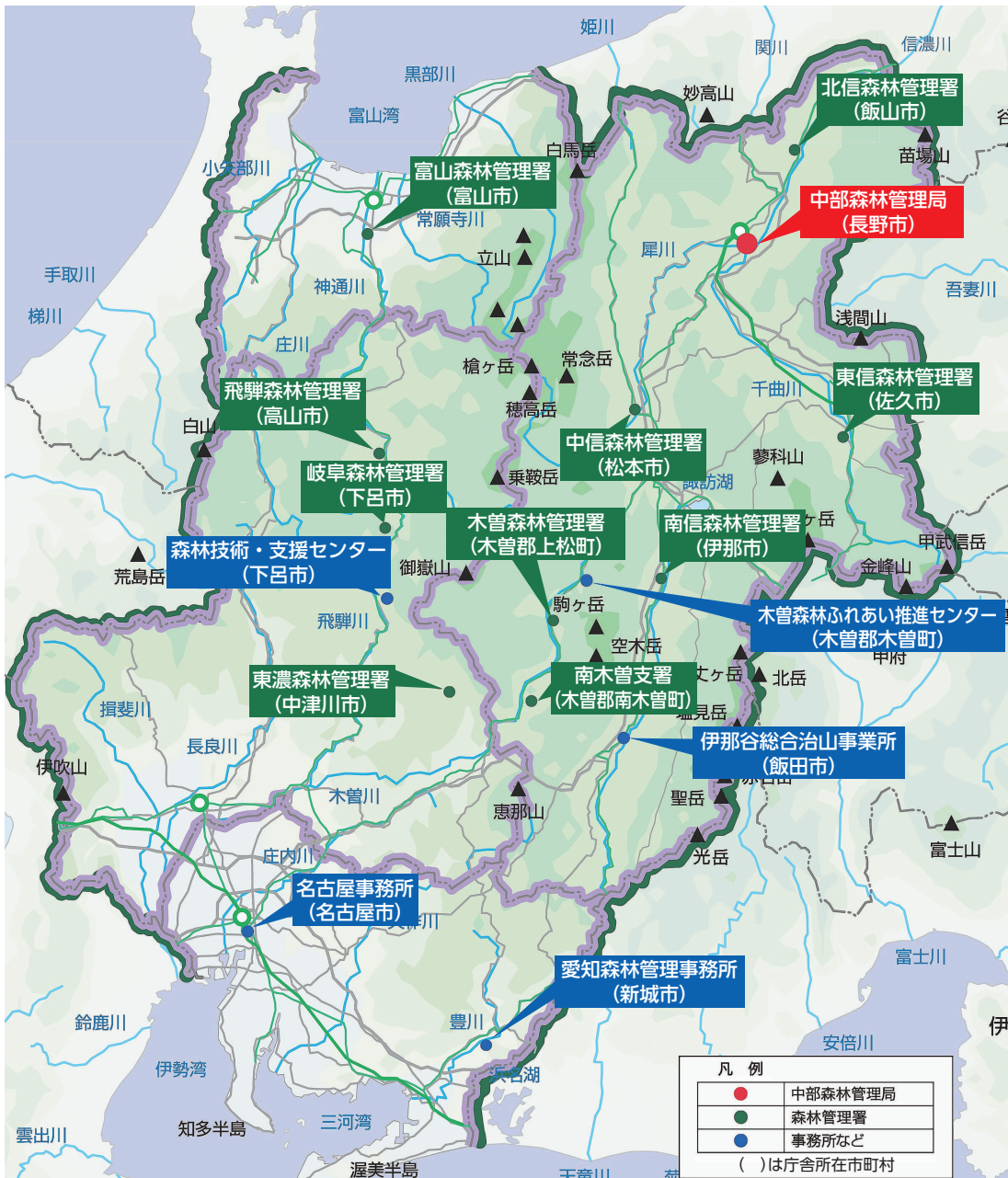
研修場所となった木曽署では、何ヶ月も前から準備を進め、研修生が学びたいことを理解しやすいようにと伝え方を工夫し、少し緊張しながらも丁寧な対応をしていました。また、事前に研修生の足のサイズを確認し用意した長靴が細くて履けないトラブルが発生しましたが、協力して代わりの長靴を準備する姿と笑顔がありました。

どの現場でもしっかりと学び、感謝の言葉を伝えてくれる研修生と木曽署職員との距離が近づいていく様子を間近で見て、とても嬉しく、木曽署パワーを誇らしく思いました!

貴重な出会いと機会、そして、たくさんの笑顔を見せていただき、ありがとうございました(^\_^)



パプアニューギニアの研修生と迎えた職員たち(木曽署)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説  
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoroo@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。